

練馬・文化の会 会だより

共同代表：有原誠治 大内要三 小岩正子 小沼綾子 田場洋和 吉田巳蔵
事務局：森田彦一 TEL：03-3951-4276 FAX：03-3951-0616

(会費などの郵便振替：00150-7-130265 練馬・文化の会) ホームページ <http://www.nerimabunka.com/>

(巻頭言) 戦争法廃棄の政権樹立を！

基礎になるのはユネスコ憲章のいう「人類の知的及び精神的連帯」
大内要三 (練馬・文化の会共同代表、日本ジャーナリスト会議会員)

1945年11月のユネスコ(国際連合教育科学文化機関)憲章前文は、冒頭の「戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」という文章で有名だが、続く文中に次のようにある。「政府の政治的及び経済的取極のみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われたいためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない」。この一節をいまあらためて読み直さなければならぬのはむろん、安倍政権が戦争法を成立させた経緯が立憲主義・民主主義

という「文化」の否定であることを誰もが知っているからだ。堂々と憲法を改正して戦争国家をつくるだけの度胸も能力もない政権党が、小選挙区制のため国民の選択を正確に反映しない議席配分のもとで、国民の多数の納得が得られていないと首相自身が認めるなかで、国会議席の数で押し切って戦争法を成立させたとしても、海外での戦争加担は日本国憲法違反という常識を覆すことはできない。常識を常識として通用させるためには、戦争法廃棄の政権樹立という政治的過程が必要だが、「人類の知的及び精神的連帯」がその基礎であることを、肝に銘じたい。

10月、11月に大内さんを講師に練馬3か所で「安保法制」の学習会 11月29日(日)後2時～は東芸稽古場で安保体制打破新劇人会議が主催

大内要三さんを講師に、「安保法案」をテーマにした学習会が練馬区内で10月、11月に3か所で取り組まれます。このうち11月29日(日)の学習会は、文化の会会員でもある青年劇場、東京芸術座のメンバーが所属する「安保体制打破 新劇人会議」によるもので、文化の会会員にも積極的な参

加が呼びかけられています(チラシ同封)。ほかに10月24日(土)には石神井台9条の会、11月28日(土)には下石神井9条の会が計画しています。なお大内さんが9月に行った講演をまとめたパンフを同封しましたので、ご参考に！

「戦争法廃止！練馬2000万署名活動」に参加しよう

戦争法の強行採決から1か月がたちましたが、安倍政権は、一つ一つの法律について、なんら説明を行っていません。国会も開かないで、質問を受け付けられない有様です。これで、立法国家と言えるのでしょうか。

国民は、黙っていません。シールズを中心とした若者は、渋谷で、大阪で街頭デモを繰り返しております。19日の「国会前抗議行動」には1か月前にも負けない人たちが集まりました。

練馬での「戦争法廃止行動」は、7月1日、9月1日の行動を中心に、今までにない盛り上がりを見せております。強行採決後は、映画に学習会に、あらゆる地域で、知恵を出し合いながら、練馬区民へ「戦争法の本質」を訴え、広げております。

「国民総がかり行動実行委員会」では、8日の集会で、毎月19日の国会前集会和、5月3日までの「2000万人署名」を提案しました。

練馬でもこの提案に呼応して、オール練馬で署名活動を行おうと11月5日(木)には、練馬区内の各団体、各組合、各政党、個人が集まって、実行委員会が予定されています。

練馬・文化の会もこの期間、「平和なくして文化なし、文化なくして平和なし」の言葉の下に、戦争法に異議を申し立ててきました。自衛隊基地を二つを持つ練馬でももっともっと運動を広げていく必要があると思います。そこで、練馬区内での10万筆を目標に署名活動に参加していきましょう。

(森田記)

永田浩三さんの「奄美の奇跡」出版をお祝いする会にどうぞ！
11月17日（火）午後6時半～ギャラリー古藤 会費1500円
満席で50名、お早めに田場（3991-9165）迄お申し込み下さい

「テレビみつがしわ」を共同制作している武蔵大学の永田浩三教授がこの7月に「奄美の奇跡」という本を出版しました。A5版で336ページにおよぶ大分冊ですが、頒価は1700円+消費税という安さです。永田教授は「ベン・シャーンを追いかけて」に続く執筆作です。この出版をお祝いし、練馬のさまざまな活動でお世話になっている永田さんへのお礼もかねて出版をお祝いする会を計画しました。永田さんの活動の拠点ともいえ

る、ギャラリー古藤さんの協力もいただいているパーティーです。

奄美と言えば、練馬の革新区政の田畑区長も奄美出身です。当時の総務部長だった滝田さんがお祝い会の呼びかけ人におなりいただいているのははじめ、NHK関係、沖縄関係の方々にも呼びかけ人としてお名前を頂いています。アットホームに楽しいお祝い会にしてください。50名も入れれば満席です。お早めにお申し込みください。

総評製作の50年前の衝撃作—軍事大国化に警鐘ならす
「汝 多くの戦友たち」（有原誠治さんがDVD監修）上映会のご案内
12月5日（土）午後1時半～ 練馬区職員研修所 資料代：300円

「武器輸出へ防衛装備庁発足—米国以外とも軍事協力強化—安保法 自衛隊活動と連動」・・・10月2日朝刊の東京新聞トップの見出しです（記事同封）。安倍首相の各国歴訪はこれまでの首相に比べ格段に多いそうです。これに必ず同道するのが財界人、それも原発関連企業の関係者と言われており、事実各国と原発輸出協定を締結しています。今回の「戦争法」成立に伴い活発化するとみられるのが、兵器の輸出です。東京新聞の記事はその危険性を報じたものです。マスコミでこうした危険性を報じたのはほとんどありません。

ところが、50年以上も前の1956年に東ドイツが制作し、当時の日本の労働組合・総評が1961年に再編集した映画「汝 多くの戦友たち」は、戦争

の背景に独占資本の野望があったことを描いた極めて珍しいドキュメンタリーです。こうした独占資本の構図は現在も変わりありません。軍・学共同などによって、軍需産業が大手をふるって跋扈する時代を迎えようとしています。この映画は多少プロパガンダ的な臭いが強すぎると評する人もいますが、果たしてそういうだけで済まされるのかどうか。一見の価値あります。

チラシのコピーには「第1次世界大戦100周年 戦後70年に贈る幻のドキュメンタリー」とあります。DVD制作スタッフとして映像修復・監修・字幕制作を有原誠治さんが担当しています。

（田場記）

忘れない9月19日 戦争法成立直後“基地の街”練馬は！
練馬平和委員会 坂本茂

○田柄の自衛隊官舎では

9月21日は国民の祝日だ、♪白地に赤く 日の丸染めて♪と歌われる 日の丸が自衛隊官舎から消えた。かつて祝日には自衛隊官舎は“国旗”を掲げ、真っ赤になっていた。法律が成立して二日目、自衛官にとって祝日どこではない。

○朝霞駐屯地では

ふたりの若い独身隊員が連れ添って駐屯地の門前で信号待ちをしていた。

坂本 ついに戦争法案通ったな 不安な毎日だな、説明はあったか、母ちゃんも心配しているだろう？

A隊員 ええ・・・全く説明ないです

B隊員 安保法制について隊員とも部外者とも一切

話すなど言われています。失礼します。オイ、行くぞ。

二人は青信号になり、去って行った。

○駐屯地などでは

私は都内の3ヶ所の駐屯地などに、9月に実施した弁護士による、自衛隊員と家族・恋人のための安保法案集団的自衛権行使相談の内用40人分の書類を持参した。

自衛官たちへ概要の説明をした。

・デモに参加するな、バレたら俺は不穏分子になる婚約破棄だと言われた

・弁護回の相談窓口へのコンタクトを禁じられた

・部隊から説明ない、せめて家族など含め相談会

を・・・不安で夜も眠れない

・ 小さな子どもが2人いる、やっとささやかな幸せを得た、パパを持って行かれたら

・ 上官にこういう仕事なんだから、墓くらいはどこか調べておけと言われた自衛官の妻や母などの涙ながらの弁護士への訴えに共感を得たようだ。

自衛官はシャバに出て飲み屋でも話せない、恋人にも母親にも同様だ、自衛官たちは私に「その文書をコピーさせて」と話しかけてきた。

自民党区議会議員は先の練馬区議会選挙では、一日中石神井公園の駅に立って演説していた練馬区議会議員がひさしぶりに駅で宣伝をしていた。私は議員に「ついに戦争法を強行しましたね。区内1万人をこえる自衛官やその家族はどうなるのか」と問いかけた。議員は熱病にうなされたように事実を捻じ曲げ、「50%が安保法制賛成だ」 6月の

練馬区議会第二回定例会では、安保法制を慎重審議するよう意見書を可決し、国へ提出した」と、繰り返した。私は議員に「1959年の砂川事件の最高裁判決を“錦の御旗”にして国民をだまし続けたが、柳の下にまたドジョウがいると思っているの、来年の参院選は自民党を落選する運動をしますよ」と、その場を離れようとした瞬間、AKBの握手会でも真似たのだろうか、議員は騙して気持ちが変わるよう握手を求めた。

世の中変わった 巷（ちまた）では 日曜日、団地自治会の防災訓練が終了すると、防災部員がスマホで何やら見ている「志位さんが安保だ自衛隊だと横に置いてあれほど譲歩しているのに岡田は何考えているのだ、野党は一緒になれ！俺はこれからシールズの集会に渋谷に駆けつけるよ、おつかれさ～ん」と、駅に向かって行った。

小岩さんの「戦争」語り部活動、これまでに50回超える 本年は区主催の祈念コンサートはじめ小学、大学など月1回以上

86歳の小岩昌子さんの「戦争」語り部活動はいよいよ脂がのって、これまでに50回を超えています。今年は区の平和祈念コンサートで初めて小岩さんの「練馬の戦争」語り部がプログラムに組み込まれ、その記録が印刷に残されるということです。小岩さんから聞いたところによると、今年の「語り部」活動を、マスコミ各社からの取材受けを含めて箇条書きにすると、以下のように2015年は月1回以上の頻度になります。

○1月9日（金）：富士見台小学校で6年生全員を対象に実施

○6月4日（木）：退職教北多摩支部で90歳代の元軍人と2人で語り部

○6月30日（火）：文化の会の「戦争を語り継ぐ会」3人の語り部の総合進行役

○7月6日（月）；北区第2造幣所北中央公園で中大学生から取材を受ける

○7月に練馬アンデスでTBSテレビの取材

○8月7日（金）：文化センター大ホールで区主催の第23回「平和祈念コンサート」で小岩さんが「練

馬に戦争があった」語り部（40分）。1500名の会場が満席。

○8月9日（日）：新婦人練馬ひまわり（10数人参加、若い人から好評）

○8月15日（土）：TBSテレビ「報道特集—私のまちも戦場だった」放送

○8月30日（日）；楠山監督「一人ひとりの戦場」上映会であいさつ

○8月にコープの集まりで「テレビみつがしわ」上映+小岩トーク

○9月27日（日）：ピースボートの集まりで「テレビみつがしわ」+トーク（於・専修大学で学生など約30人が参加）

○10月6日（火）：練馬喫茶店でアメリカ青年（日本近現代史専攻）の取材を受ける（これからの予定）

○11月12日（木）；富士見台小の研究発表の公開授業

○11月14日（土）：大泉第2小6年生全員対象の公開授業（田場記）

翁長知事の辺野古埋め立て承認取り消しで防衛省交渉 沖縄から抗議船船長も参加 満田夏花（国際環境NGO Fo e理事）

「翁長知事支持！ 国は対抗措置をとらないで」への賛同・署名をいただいた団体・個人の署名を10月7日、防衛省に提出しました。また、防衛省交渉・集会を行いました。沖縄から抗議船の船長もされている、北上田毅さんが駆けつけてくれました！

政府交渉の冒頭、知事が埋め立て承認を取り消した場合、防衛局側は埋め立て行為の法的根拠を失うため、すべての作業を中止すべきと申し入れたのに対して、防衛省側は、「知事の取り消しは違法」と発言し、場内が騒然となりました。

市民側は、埋め立ての承認や取り消しは知事の

権限、「違法」だというのならば、何法の第何条に違法なのかをしめせと迫ったのですが、結局、先方は回答できませんでした（当たり前ですが）。当方からは、公務員たるもの、法的根拠も示せないのに、知事の判断を「違法」とするなどというのはとんでもない話であると強く抗議しました。

そんな一幕もありましたが、交渉では、以下の成果もあがりました。今後、防衛省側が強引に工事を進めようとしても、事実上のハードルになると思います。防衛省は、かねがね辺野古側の浅瀬部分の護岸工部分を先行させる意図を示していたが、交渉の中では、「施行手順も含めて願書に書かれている内容にそって施行していく」とした。すなわち変更の場合は、変更申請、知事の承認が

必要となる。

・防衛省は、名護市教委の文化財調査の対象箇所となっている仮設ヤード、仮設道路の施工箇所については、「名護市教委との調整が必要になる」と認めた。

井上防衛局長はボーリング調査終了前でも、最初の本体工事として、仮設ヤード、仮設道路の設置工事に着手すると述べていますが、これらについては、防衛省は「仮設物については実施設計協議の対象ではない」と言い張り、それを沖縄県も認めていると発言しましたが、実際にはこれはウソで、沖縄県は「仮設ヤード、仮設道路等の仮設物についても実施設計協議の対象」と防衛局に伝えているとのことでした。

**沖縄3題 ①武蔵大で11月1日に「沖縄 うりずんの雨」の無料上映会
②植竹さんが11月21日に「ゆめりあ」で舞踊と民謡のイベント
③女性牧師が11月27日に石神井庁舎で宮古島の自衛隊基地配備問題を報告**

ともにチラシを同封しましたので、お読みください。11月に沖縄関連の企画が練馬で3つ行われます。11月1日（日）午前11開場でユンカーマン監督の映画「沖縄 うりずんの雨」が武蔵大学で無料上映されます。膨大な資料と映像をもとに沖縄の（基地）戦後史をたどったものです。次いで11月21日（土）には今年の文化の会新年会で好評を得た沖縄舞踊の植竹さんが、大泉の「ゆめりあホール」で「沖縄からの島だより」を主宰します。も

うひとつ、藤井牧師の練馬コイノニア集会主催で、宮古島の女性牧師を招いて現地の自衛隊配備阻止の行動を報告してもらう集会が11月27日（金）後6時半～石神井庁舎で行われます。沖縄は辺野古だけでなく、“尖閣”を口実に今や全島が日米両国の軍事基地化されようとしています。来春には文化の会の45周年企画としてトーク、踊り、歌による「沖縄フェスタ」が計画されています。

- 練馬区議会に「議場に国旗（日の丸）を掲揚しないこと」を求める陳情を田場までお送りください（同封陳情書に田場住所を明記）
- 定例幹事会のお知らせ（会員の方はどなたも出席自由です）
11月9日（月）午後6時半～ここねり多目的会議室
12月14日（月）午後6時半～ここねり研修室（終了後「望年会」を予定）

10名が新しく入会

日ごろお付き合いのある人には気軽に入会のお誘いを——ということで、幹事会レベルで入会をよびかけたところ、本年に入って以下のように10人もの方に入会いただきました。戦争法廃棄の世論が盛り上がる中、「平和なくして文化なし」を掲げる「文化の会」にとっては入会を呼びかける絶好の機会です。約30～40名が入会すれば会員は200名です。45周年を迎える来年には200名会員を実現したいものです。今から来年3月までに入会すれば、年度途中のため15年度会費支払は免除で、

次年度（16年度）からの納入となります。「会だより」は会員として登録され次第即送付の扱いになります。今回入会された方の自己紹介は次号に掲載します。

○ 伊藤洋子（教育）、植竹しげ子（琉球舞踊）、加藤嘉文（映像表現）、桐生明夫（美術）、新藤通弘（中南米研究）、田淵祐子（「いしづえ会」事務局）、戸田桂太（武蔵大名誉教授）、永田浩三（武蔵大教授）、柳沢健二（雑誌「経済」編集部）、